

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第125号 (2023.7.9-2023.7.16)

- ◆ 参加者：雷(らい)、モリマサ公、しまねこくん、奥かすみ、花野玖、何となく短歌、みさきゆう、西脇祥貴、西沢葉火、星見冬夜、石原とき、元さん、藤井皐、新妻ネトラ、水の眠り、おかもとかも、ゆう(かっし)、海馬、はゆき咲くら、温(ぬ)、正。、ぱぎ、涼 susuru、風ちひろ、汐田大輝、おたま、hyuutopa、りゅうせん、ひうま、片羽 anji、雲雀、かのん、岩瀬 百、箱庭伽藍、雪夜葦星、まつりべきん、水戸 充希、Tomoko、石川聡、蔭一郎、涼閑、輪井ゆう、上崎 Bom Shiny(モンモン)、星野響、汐田大輝、堯陽花、太代祐一、短歌初心者、徳道かつみ、佐竹紫円、ダリア20、草大朗、hoca、さー、むくみんママ、ほたる、えびたからいち、いずみ、とるぼーる、しろとも、dakey、萩原アオイ、抹茶金魚、影薄幸直美、まきまき、あつみさん、鴨川ねぎ、宮坂菱哲、森紗季、森内詩紋、IQ、THE、BR2、月波与生(七三色)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

- 大きすぎるくらいおはぎで眠らない 抹茶金魚
議事録の雪はつぶつぶ母もつぶつぶ 西脇祥貴
梅雨明けの静脈きれい私きれい ひうま
眠い目をこすってひとつ悪事する 西沢葉火
背面跳びで見る田舎 西沢葉火
速達で届く熱帯夜において 上崎
潤いが似てゐるものに蝸牛 しまねこくん
バス停を信じて成り上がってゆく 西脇祥貴
背を抱いてそっとFANZAを闇の中 水の眠り
木曜に頭を下げる予備動作 まつりべきん
黄泉戸喫のサカバンバスピス 岩瀬百

自信だけあってふわとろオムライス りゆうせん
時計屋の時計に結末を訊くな 海馬
では先に下がり眉毛になってます おかもとかも
二の腕の触れぬ距離取る暑氣払 花野玖
卒塔婆のてっぺん競ふ夏茜 花野玖
再会を喜ばなくて水ようかん しろとも
嗚呼そして君はびんくっぽいブルー いずみ
釘、てこの原理で抜くと夜ひらく あつみさん
砂丘からさつき帰った黒揚羽 モリマサ公

覆われて痺れる舌は嘘をつく みさきゆう
残された検温カメラと流行り病 雷
一人分 夕餉に上る見切り品 星見冬夜
杜若ブルーチェばかり死んでいた 藤井卓
翩られる為だけにある胸飾り 新妻ネトラ
ひとり食む西瓜むしやむしや甘いのか かしくらゆう
求め合ふ焰の醒めて宵の朱 ぱさ
朝散歩終えて朝風呂気持ちよか 涼
獣らの眼感ずる鈴ヶ滝 syusyu
西日濃しプログレ好きな社畜たち 汐田大輝
やさいすきにくよりさかななせふとる おたま
どうしても栓が抜けない巴里祭 hyutoppa
柔肌に 誘惑されて 桃3つ かのん
蚊の鳴く夜に火を点けて渦巻きの解ける 箱庭伽藍
成仏を許さぬひとよ夏鳥よ 雪夜彗星
握つてる新子ペーション 石川聡
荒海の置かれ静まるコースター 蔭一郎
暮れなずむ駅舎寄り添う影と影 涼閑
黙るのを断固断る頭痛鳴る 輪井ゆう
梅雨明けの作法は一子相伝で 星野響
トマトにはトマトの音色が渦を巻く 太代祐一

明日しか見ない目玉が濡れている かづみ
特別に見せて欲しくて山開き ダリア 220
口角を上げてはみても一人なり ほたる
草いきれ秘密の場所で抱き合って とるぼとる
似てきたねお母さんと人が云う 萩原アオイ
エスカルゴ食べて尻から蝸牛 MASHI
どうせなら脳がチョココメントになればいい 鴨川ねぎ
セックスに蓋閉め消える日本人 宮坂変哲
きみはまだアンパンマンの正体か 森砂季

抜け殻に戻れぬ蟬は時差である 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

手を広げ「ワタシも上で踊りたい」はじめて知ったジェラ
シー 熱夜 はゆさく

蝕まれた君を葬る儀式のよう ふたりぼっちの線香花火
奥 かすみ

8年前に途切れた信号を解読しました「ああ、弟よ」 みさ
きゆう

群れ泳ぐたくさんの目が映すのは独り動けず泣いてる私
何となく短歌

ものもらいに亡霊におとり鮎に「すれっからしね」どこか
カルキ 石原とつき

太陽が水平線に反射する夏の訪れ海へようこそ 元さん
チャパモちゃん棚の裏からパツと出た紺碧のグギギギク

ガガガガッガッガッガ 正。
ままならぬ世の中なれど我生きて君も生きてて笑い合おう

日々 風ちひろ

名前に陽とつけられた子は明るく生きて行くだろな　むく
みんママ

目を閉じて肩にもたれし君を撫ぜフアティマの手となり依
依恋恋　片羽雲雀

ゼロ距離にいたって僕は二番目で君の熱さはアイツのもの
で　水戸　充希

遠くから静かに応援してました　赤いカンナのようだった
君　Tomoko

ありがとうとごめんねの境界線で盲目の自転車走る　比
島アルト

暗闇で僕を照らした眼差しは冬の優しい日差しのように
短歌初心者

あなたへと差し出す花に閉じ込めた意味には気付かれなく
てもいい　佐竹紫円

夏空は暴力的なほどのち息するだけのわれを殴りて　草
太朗

一人きり伸びて縮んで繰り返しいつまでもわたしどっちつ
か　かずで　月色萌果

きらきらな君がHPプリンタの印刷物じゃない証、脇毛
えびたからいち

LINEにてさみしい夜に話しかけ毎日ツライほぼひとりご
と　donkey

老いた身にハードル高し介護保険手続き終えるゴールは遠
く　影薄ぎ直美

◆詩

神々しい夕焼け空。

心優しいあなたが

温かな光に包まれます様に。(温(ニ))

すれ違ふ時に 私をじつと見て
可愛くなかった と言う学生
自分より弱そうと見ると 何でも言うのねえ。
さみしい夜のとうか
なんだか切ない夜。(※紫陽花※)

◆作品評から

卒塔婆のてつぺん競ふ夏茜 花野玖

く路地を歩いてみると、石塀からなにげなく並んだ卒塔婆の先端のほうが見える。しかし、卒塔婆たちはてつぺんを競っているのだ。なのでただこちらが気づかないだけで日々伸びてるのだろう。なんのためか？しかしそれを考えるとき事に近い解釈になる。卒塔婆たちはただてつぺんを指す。季語もいい。(蔭一郎)

5

抱っこ拒否の猫を各自で用意せよ 抹茶金魚

く猫は規定できない生き物なのでその時々で受け入れたり拒否したり。規定できないところは川柳に似てる。川柳人に猫が多いのはそういうところもあるからだろう。(月波与生)

覆われて痺れる舌は嘘をつく みさきゆう

くこれ好き。(森内詩紋)

西日濃しプログレ好きな社畜たち 汐田大輝

く平等求め間違っ使い方 (110_111E 113_112)

ささくれは小さい悪のことである 西沢葉火

〜以前丸山進さんが「川柳は誰とやるかが大事」というようなことを言っていたのを最近のパピプペポ川柳を読んで思い出す。ささくれを見せ合うのが川柳ともいえるし。

(月波与生)

神社から TSUTAYA から更地から砂 おかもとかも

〜 TSUTAYA が街にやって来て本屋さんがなくなり怪しげなレンタルビデオ店は消えた。そして今 TSUTAYA も砂へかえる時がきている。(月波与生)

木曜に頭を下げる予備動作 まつりぺきん

〜「頭を下げる(ための)予備動作」なのか、「頭を下げる(という)予備動作」なのか、少し悩みました。前者ならば思い切り頭も逸らしていざりちらすユーモアの姿があり、後者ならこれから来たる事態への緊張感があります。いずれも、決戦は金曜日ですかね。(徳道かつみ)

6

饅頭のおんこの辺にある詩情 睦月ヨシ

罰として銘菓になつてもらいます 太代祐一

〜「和菓子」という題の句会があったのか和菓子の句が並んだ。饅頭の句は「詩情」が上手いし「銘菓」になるのが罰というのも面白い。(月波与生)

足首だけで触る夕風 岩瀬百

〜同性愛句集倶楽部 の作句で性的な言葉の使い方に悩まれてるようだが、掲句のように性的な言葉がなくても性を感じさせる句は書ける。試行を続けていただきたい。(月波与生)

押しピンを刺されたままで色彩を徐々に失う卒業写真 奥かすみ

〜卒業写真を頻繁に見る人とまったく見ない人がいて自分は後者であるがこの感覚はわかる。そして卒業写真の頃よりはハッピーでありたいと思うのだ。(月波与生)

山椒魚月刊ムーで知る歴史 馬勝

〜大切なことをみな「月刊ムー」で学ぶのは、手塚治虫だけ読んで人生を知ると同じくらいリスキーな生き方だ。が何故か後者は同意者が多い。(月波与生)

スパゲッティ上手に食べられなくたって大人になれるな
ってしまふの 奥かすみ

〜ナポリタン。カレー南蛮もそう。白いシャツを着ているときに限って食べたくなるのが大人。「なってしまふの」のリフレインがいいね。(月波与生)

遺品の中から避妊具 水の眠り

〜きわめて川柳的な状況ですが現実的にはよくある光景
かもしれません。遺品整理業が盛況な理由の一つとして故
人の性を知りたくない、というのはあるのかも。(月波与生)